学びの広場

手作りの郷土食を

仙南西小学校の料理教室で児童と料理に取り組む照井サダさん

私たちの世代は小学校から青年期までを戦中・戦後の食糧難の時代に過ごしてきた世代です。幸いにも農家に生を受けた私は町部の学校仲間に弁当箱をのぞかれた時、豊富な食材をとても羨ましがられたものでした。家には鶏や山羊もいました。

また、あの時代は砂糖が貴重な時代でもありました。祖母や母が餅米と麦芽でつくってくれたベッコウ色の飴の甘さと美味しさは決して忘れることができない思い出のひとつです。

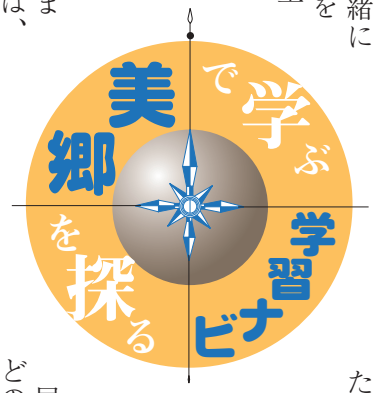
焼き餅、干し餅、あられ、せんべいなどもつくってもらい、私はそれらが大好物でした。私が料理好きになったのはきっとこうした体験があったからだと思います。

公民館やコミュニティーセンターで開催される、地元で採れた食材を使った料理教室にも近所のお母さんたちと一緒に勉強させていただきました。また、十年位前からは、小学校の四、五、六年生と一緒に料理教室に参加させていただいています。

小学校では、年度の初めに、先生や子どもたちと一緒になって一年間のプランを立てます。手作りの郷土食をメインに、子どもたちの希望と相談結果をもとに献立をつくります。月に一度の実習を生徒はもちろんのこと、私もうきうきしながら楽しみに待っています。できあがった料理は、ほんの少し試食して残りは持参した弁当箱に入れて持ち帰り、家族団らんの際にみんなで試食しているようでその心がけにとても感心しています。

子どもの頃の体験は、人生に大きな影響を与えます。地域の子どもたちが健やかに育つよう、私たちが協力できることがきっとあると思います。学校の学習活動や地域の活動に皆さんも参加してみませんか。

（生涯学習奨励員　照井サダ）



文化財探訪

No.11 六郷城址

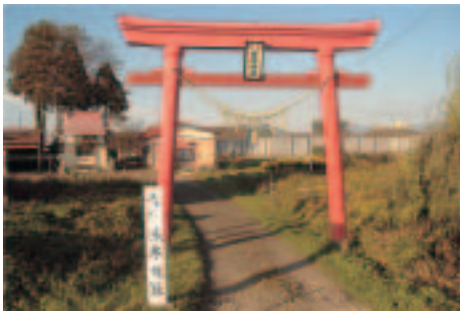
六郷城は、本丸・二の丸を囲む形をした二重堀の平城であったとされています。城跡東側を坪楯街道、南側を羽州街道が走り、交通上の重要な地点にありました。六郷氏は、鎌倉御家人で陸奥南側（現在の福島県岩瀬地方）にも領地をもっていた二階堂氏の子孫であったと伝えられており、室町幕府が勢力を失った応仁・文明の乱のあと、六郷地域に住んだといわれています。

永禄二年（一五五九）、六郷氏は稲荷岡の東側に六郷城を作りました。同時に城下町の建設を進めながら、永禄期には、熊野神社、諏訪神社、永泉寺、善応寺などの寺社を移転させました。天正十九年（一五九一）には、六郷政乗は、豊臣秀吉から十四か村四千五百十八石の領地を与えられ、神尾・金沢・久米・戸蒔氏などの配下も独立した領主になりました。また、文禄期（一五九二から一五九六）には河隈川（現在の大仙市大曲角間川町）の船場によって活気ある城下町として発達しました。

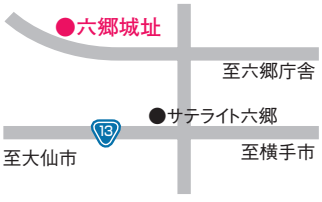
しかし、六郷氏は、慶長七年（一六〇二）に常陸府中（現在の茨城県府中市）へ転封となりました。

六郷城は慶長以降の十一年間、初代秋田藩主佐竹義宣の父義重が住んでいましたが、義重の死後、廃城となっています。

なお、平成二十四年は、義重没後四百年の年にあたります。



六郷城本丸跡



文芸美郷

短歌

今生れし十六人目の我が曾孫の産声聞きつ安堵のよろこび
鑓田　高橋　カネ

夏坊ず育て愛しき幾十年冬中可憐な花を和ませて
上深井　鈴木　晴子

汚濁する小川の水にとける雪日毎に募り清い流れに
金沢　坂本浅次郎

えとの亥が三人揃い和やかに幸多かれと初日を拝む
六郷　籠谷　ミチ

雪だるま二体つくりし帰省孫けさまろやかに初日をうくる
金沢西根　小野寺龍治

ウォーキング行き通う人の合言葉いい正月ね十九の冬は
六郷　鈴木　久子

亥の春に床に飾りし福寿草小さいつぼみそっと出しおり
六郷　林　文子

大鳥居初梵天むかえにてジョヤサかけ声勇敢に金沢栄えむ
金沢　伊藤　敏子

穏やかな雪無し正月長閑なり去年の豪雪頭をよぎり
金沢　斉藤　静子

五つ度も襲いくるのか最悪の病魔に克てと祈る家族等
六郷　岩田　貞

己が道隠れキリスタン洞窟へ喜怒の涕か壁雫して
金沢西根　東海林甚平

天伝ふ微笑み残し征き給う空のはたての浄土曼陀羅
畑屋　本間　精一

目もあけず答えるもなく息をする老母の世界は雪降りですか
六郷　藤本　昇

古戦場の雁行みだれし西沼を三連橋にて往時を偲ぶ
金沢　北嶋　カネ

俳句

四世代食育かるたに興じけり
金沢西根　加藤　栄子

どしゃ降りに雪の消えいる七日かな
金沢西根　加藤　省市

耳遠き母との電話冬籠り
千屋　戸澤　陽子

新雪に色鮮やかな梅もどき
六郷　髙橋　ゆき

寒い朝ガラスに花が咲にけり
六郷　加藤　良子

小正月亡父の天筆手本帳
畑屋　髙橋　周平

初春のヒルズの都陽の満みて
六郷　鈴木　ちよ

合掌の瞑目に鳴る除夜の鐘
六郷東根　煙山　善吉

教友逝けり雪野の墓標哭く風
本堂城回　杉山　信一

しんしんと降る雪重み春を待つ
上深井　田中　重吉

川柳

見てはダメ云われればもっと見だぇぐなる
飯詰　小林　耕次

急がねば亡父の石にも雪が降る
六郷　熊谷　順子

三日坊主今年もしっかり後を継ぐ
六郷　奈良　松雪

美郷の赤ちゃん

佐藤　瑞姫（みずき）ちゃん
（中前郷／利幸さん・美郷さん）
「朝陽おにいさんと一緒に元気に仲良く大きくなってね♥」

◀「シクラメン」
六郷　坂本　和子

募集します

あなたの作品やお便りを募集します

あなたの作品やお便りなどを「広報美郷」の紙面で発表してみませんか。

【応募方法】次の①、②を記入のうえ、ご応募ください。
①作品（短歌、俳句、川柳、イラスト、お便りなど）
※短歌等は楷書で、漢字には読み仮名をお願いします。
②応募される方のお名前、ご住所、電話番号
【締め切り】2月14日（水）
【その他】・応募者が多数の場合は、掲載できない場合があります。作品は1点とします。
・作品の内容が広報掲載上好ましくないと町で判断した場合は掲載しません。

「美郷の赤ちゃん」を募集します

あなたのかわいい赤ちゃんを「広報美郷」の紙面で紹介し、思い出の1つとしませんか。

なお、3月号では、平成19年1月に生まれた赤ちゃんの写真を募集します。

【応募方法】次の①、②をそろえてご応募ください。
①赤ちゃんが写っている写真（1枚）
※裏面にご両親と赤ちゃんのお名前、赤ちゃんの生年月日、ご住所、電話番号を記入すること。
※ご応募いただいた写真は、原則として返却しません。
②ご両親（ご家族）からのメッセージ（30字以内）　※様式は自由
【締め切り】2月14日（水）

【応募先】次のいずれかの場所にご応募ください。
●役場（六郷庁舎）町長公室　●役場各庁舎の総合サービス課　●美郷町のメール（info@town.misato.akita.jp）